

タリタクム日本 News Letter

(人身取引問題に取り組む部会)

日本カトリック難民移住移動者委員会 発行
135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 日本カトリック会館
電話 : 03-5632-4441 FAX : 03-5632-7920 E-mail: jcarm@cbcj.catholic.jp
発行責任者 : 松浦悟郎

第1号

2017年9月1日発行

難民移住移動者委員会に人身取引問題に取り組む部会「タリタクム日本」設立

さる6月20日、日本で起きる人身取引や強制労働、その他の現在の奴隸制度の根絶を目指す「タリタクム日本」の設立集会がニコラバレ修道院(東京・四ツ谷)で開かれ、日本カトリック難民移住移動者委員会のなかに、人身取引問題に取り組む部会が正式に発足しました。

設立記念集会では、松浦悟郎司教(難民移住移動者委員会委員長、名古屋教区教区長)による記念講演「わたしと人身取引被害者支援～シェルター活動の経験から」(P2-3 参照)に続き、タリタクム日本の設立までの経緯や組織および活動について、タリタクム日本の運営委員を代表してシスター アビー・アベリノ(メリ

ノール修道会)が説明し、その後、参加した奉獻生活者、信徒らが今後の取り組みに向けて何ができるかを話し合いました。

以下に、タリタクム日本の設立までの経緯、また今後の予定などを簡単に紹介します。

ど3名が参加し、日本でもこの課題に取り組む必要性を訴えたことが、タリタクム日本設立のきっかけとなりました。

女性の性的搾取や過酷な児童労働、臓器売買などの深刻な人権侵害を引き起こす人身取引は、全世界のカトリック教会にとって、取り組むべき優先的な課題の一つにとりあげられてきました。日本においても、1980年代後半からは外国人(移住)女性への性的搾取、そして2000年代からは、現代の奴隸制度などと国際社会から批判される技能実習制度などのもとでの労働搾取が深刻な問題となっています。また最近では、人身取引の形態が多様化し、JFC(ジャパニーズフィリピノチルドレン)の母子や留学生などがブローカーから騙され、深刻な搾取を受けているケースがマスコミ報道や支援現場からも報告されるようになりました。

こうした日本の現状をふまえ、タリタクム東南アジアの会議への参加をきっかけに、「タリタクム日本」設立に向けて、日本のカトリック教会内部で準備を進めていくことになりました。

設立準備会の活動

2016年2月にタリタクム設立準備会がスタートしました。準備会には、難民移住移動者委員会のほか、日本女子修道会総長管区長会および日本カトリック管区長協議会が参加し、タリタクムの組織について、また活動のビジョン、ミッション、目的などについての話し合いを重ねてきました。このような準備のプロセスを経て、タリタクム日本は、日本カトリック司教協議会のもとにある難民移住移動者委員会の部会として位置付けられるものの、日本女子修道会総長管区長会、および日本カトリック管区長協議会の3者の対等な連携関係により活動を進めていくことが合意され、設立趣意書や規約などが3団体で確認されました(設立趣意書は別紙参照)。



「タリタクム日本」の設立経緯

タリタクムは、もともと修道会総長会議と連携した国際総長会議のプログラムで、人身取引に反対する奉獻生活者の国際的なネットワーク組織です。2015年12月にベトナムで、タリタクム東南アジアの会合が開かれ、難民移住移動者委員会から派遣したメンバーな

松浦司教記念講演

「わたしと人身取引被害者支援～シェルター活動の経験から」

タリタクムの結成をとてもうれしく思います。今日は、シェルター活動をつうじた私の人身取引被害者支援の経験について分かち合いたいと思います。

大阪教区で司祭として働いていた 1988 年から 1990 年代、大阪カトリック神学院や堺教会でのシェルター活動の経験は、私自身を大きく変えた機会でした。

社会には、表層の部分からドロップアウトする人を救う様々なセーフティネットがあります。しかし、シェルターに来るのは、セーフティネットの中にさえ受け入れられない人たちでした。社会の問題点がもっとも弱いところに現れるシェルターの現場で、日本社会が問われ、教会がこうした現実のなかで何ができるのかを問われる経験をしました。私にとっては大きな変化、回心をさせられた機会でした。

シェルター活動のはじまり



大阪教区のカトリック神学院が閉鎖され、センターとして青少年のための司牧、社会的な活動に使うことになり、1998 年大阪教区の司祭であった私がそのセンターの運営を任せられることになりました。その頃、フィリピン人がミサにたくさん来ており、バハイニマリアというグループの人たちが中心になつていろいろなケースを扱っていました。人身売買といえる悲惨なケースがたくさんあり、売春を強要

されている女性からの SOS を受けて店からの逃亡を助けたり、またフィリピン人が被害に遭ったときに連絡ができるよう、入国時に「SOS カード」を配布するような活動もしていました。

そうしたある日、仕事を斡旋してくれるはずのブローカーがお金だけとつていなくなってしまい、ペル一人が 6 人新大阪で行き場がなく困っている、という連絡がありました。そこで迎えに行き、6 人を保護します。これがシェルター活動の始まりでした。その後、次々とペルの人が助けを求めて訪れるようになりました。カトリック大阪神学院はペルー本国でも有名になっていたようです。そして 1992 年には 134 人、1993 年には 126 人の外国籍の人たちをシェルターに受け入れることになりました。

シェルターの運営と支援

70 豊敷きの部屋をはじめ、全館を使って、多い時には 60 人を受け入れたこともあります。シェルターに入ったペルの人たちには日課があって、朝起きて、掃除をしてご飯が終わると、夕方まで仕事探しに出かけていきます。食事は、同じくシェルターに入っていたフィリピンの女性が一手に引き受けてくれました。また神学院でも、集まった仕事の情報を伝えるなど、就職活動の支援をしました。このペルの人たちには、90 年の入管法改定で入ってくるようになった日系人が多く、定住者のビザを持って、就労できる人が多数でした。

次に、タイの人が続々と入ってきました。タイの人たちの多くは、売春被害にあってタイ領事館に逃げ込んだ、人身売買の被害者でした。本国の家族に連絡をとり、帰国の準備がととのうまでの間のシェルターの提供が必要でした。タイの人は仏教なので、部屋のなかに仏像を飾るなど、安心できる環境をつくるためにあれこれ工夫しました。

タイはもともと、女性中心の社会でした。しかし、ベトナム戦争で米軍基地ができることで貨幣経済が



入ってくると、次第に男性中心の社会になっていきました。男性は遊んでお金を使い、その借金を返すために、バンコクで働く女性たちが出てきました。そこから日本に売買されるルートがあった。日本に来て日本のブローカーが引き取った瞬間、「お前には何百万の借金がある」「1年、2年働けば返せる」と言われるということでした。逃げてきた人たちは、いずれも帰国費用がない人ばかりです。タイの人は踊りがとても上手なので、タイ料理と飲み物、そしてタイの踊りで会を開いてお金を集めたり、依頼があると出張掃除で稼いでもらったりして、順番に必要な人の帰国費用にするなどの支援もしました。

こうしたカトリック教会の支援がタイ政府から認められて表彰されるということになり、タイに出かけると、外務省の壁に「日本に行くな、危険！」を大きく書かれていることが印象的でした。

シェルター活動で大切なこと

シェルターの中で何もしないでいることは、実はとても辛いことです。そのため、シェルターでの食事づくりや、高齢の信徒の家の掃除を手伝ってもらうなど、いろいろな仕事をしてもらいました。シェルターのなかでもその人が生かされて働ける場所があるとよいと思います。

もう一つ大切だと思うのは、その人がしてきたことで責めたり、倫理観を問うことがないよう気をつけなければならないということです。また、彼らに接する時に、私たち日本人や支援者は、圧倒的に強い立場であるということを認識しておくことが必要です。彼らは、「かわいそうな人」なのではなく、尊敬できる人たちでした。私とあなたは対等な人間だという姿勢を、いつも大切にしなければならない、と思います。

最後に、私のシェルターの経験を振り返ると、何かが揃ったからシェルターを始めた、ということではありませんでした。夜にたくさんの食べ物を持っててくれるスーパーで働く人、お米を運んでくれる人、助けにかけつける弁護士たちがいました。動き出したらなにかが始まるということが真実だと思います。

「タリタクム日本」の設立に寄せて

今回、「タリタクム日本」が立ち上がった意味はとても大きいと思います。女子修道会や男子修道会が、国際的な流れの中で使命を感じて立ち上がってきました。これまで取り組んできた J-CaRM と協働して、逃げられない、どのように逃げたらよいかわからない彼らのために、何かをはじめるきっかけとなればと思います。

一人ひとりの意志が教会を動かしていくと思います。今日はそれを確認しながら、元気を出して出発できたらと思います。



今後の活動に向けて

2017年6月に「タリタクム日本」が正式に発足し、規約に従って運営委員が選出されました。また部会の責任者には、日本女子修道会総長管区長会のシスター 塩谷惇子（聖心侍女修道会）が就任しました。



今後の「タリタクム日本」は、設立趣意書に掲げた「ビジョン」「ミッション」「目的」「行動計画」にもとづいて活動を進めていきます。

設立記念集会では、今後の取り組みに向けて私たちに何ができるか？を参加者がグループに分かれて討論しました。「人身取引の実態を知り、周囲に伝えていくこと」や「少しでも連携して、シェルターなどの被害者支援を進めていくこと」などの意見が出されました。

啓発や研修については、タリタクム日本設立準備会の2016年7月に「人身取引とは何か」の基本セミナー、9月に「技能実習制度とその支援」のセミナーを開催するなど、すでにその活動がスタートしています。今後も、人身取引に関する啓発や研修に力を入れていく予定です。

シェルターなどの被害者支援については、2017年5月に日本女子修道会総長管区長会が呼びかけ、各修道会におけるシェルターの受け入れ状況を把握するための調査を実施しました。今後、この調査の対象を広げると同時に、回収した調査票の分析を行い、人身取引被害者支援にとって重要な支援情報として活用していきたいと思います。

また、カトリックの国際的なネットワーク運動として、世界やアジアのタリタクムと連携し、情報交換をしつつ、日本での活動を進めていく予定です。

人身取引の根絶に向けた、今後の「タリタクム日本」の活動にご注目いただき、みなさまからのご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。

募金のお願い

「タリタクム日本」では、設立にあたり、今後の活動のための募金を集めています。募金は今までお願いいたします。

郵便振替口座 00110-8-560351

加入者名 日本カトリック難民移住移動者委員会

通信欄に「タリタクム日本」と明記してください。

継続的に、ニュースレターや研修会などに関する情報をお送りいたします。

発行物のお知らせ

『国籍を越えた神の国をめざして 改訂版』日本語版(B6判16ページ)、6カ国語版(B6判46ページ)

1993年に発行されたものの改訂版。多文化多民族共生社会を築くため違いを越えて共同体を作り上げ、社会にあかしする教会をめざします。

『技能実習制度 Q&A』(A5判4ページ)

技能実習生の被害者に接したとき、また、話を聞いたときどこに連絡すればよいのかを明記しております。教会で外国人技能実習生から被害の訴えや救済を求められたときの連絡にご活用ください。日本語、英語、ベトナム語各言語で発行しました。中国語、タガログ語版も近日中に発行予定です。

(ご希望の方は難民移住移動者委員会事務局までお申し込みください)